

## 単独小屋作りについて

### ① 作る、と決めるまで

諸事情から、庭の真ん中に物置が必要になり、鋼製物置ではあんまりなのでログハウス風のを、と思いましたが、助っ人を当てにできないので、本当に完全に一人で作れるのか、が大問題でした。いちばん重い、または大きい部材はどれ位なのか、屋根まわりは一人でできるのか。追加の部材や道具などいろいろな必要そうなので一カ月くらい悩みました。

なにより休日しか作業できないので、工期はかなりかかるだろうし、雨はどうしのぐか、なども大きな不安要素でした。

しかし結局は、庭にこれが出来たらいい感じになるだろう、なんとかなるべ！と、思いきりました。

### ② 基礎工事

専門業者に頼みました。建設地は、春先は連日暴風が吹くので、アンカーボルト29本を埋め込んでもらいました。水平、対角が正確だったので、その点はあとの作業が楽でした。

### ③ 荷受け

連絡のあった日時に正確に届いたので驚きました。ユニック車で吊り上げて降ろされた二つの大きな梱包を見て、「うーん、これはすごい」。ビニル包みを開けてみても、いろんな部材がちょうど四角く納まるように重なっているだけのようで、どこから手をつけていいのかわかりません。

土台になる角材は、二つ目に開けたほうの包みのいちばん下にあったので、片方の山から別の山にどんどん材料を移動して取り出しました。先が思いやられる感じで、とても材料チェックなどしてられません。車2台分位のスペースを材料置き場にできると一人でもだいぶ楽だと思います。

大量の同じ部材（野地板など）はいちおう分けて、それぞれブルーシートで覆ったのですが、置ける場所にそれぞれ置いたため、庭のあちこちにブルーシートの山ができて、しかも休日限定作業のためいつまでもそれがなくならず、工事現場で生活しているような気分でした。というか、現場そのものです。

### ④ 土台の設置

土台のボルト位置を丸のことノミで削って、ドリルで穴を開け…を繰り返して、腰がガタガタです。途中からは立ちあがるのも辛く、膝で移動してやりました。なんとか土台が組みあがると、いちおう「家」ぽくなり、嬉しいものです。対角を測ると、ぴったり正確なのであらためて基礎屋さんに感謝しました。

土台を削ったところに、シロアリ予防薬をスプレーしました。

## ⑤ ログ組み

説明書を見て、それらしい長いログ材を運んできました。というのは、ユニックで降ろしてもらったのは家の北側の庭で、建てるのは南側の庭です。いったん北側に行って材料を探し、材料の山の中から使うものを掘り出して担ぎあげ、よたよたと道路を歩いて南側の建設地に運んでいき……を、このあとえんえんと繰り返すわけです。

いちばん下の桁側（長い側）のログをコーススレッドで何箇所も止め、妻側のログを重ねようとしたら、……交差する部分が入りません。

「なんだ、この切り欠きの向き間違ってるんじゃないの？」と思い、ノミで削りました。が、やはり入りません。図面を見て、ログの形を見て悩んでいるうちに、ん、これ違うぞ！ と、ようやく気づきました。なんと、いちばん上に乗せるべきログを、いちばん下に使ってしまったのです。一見、形が同じにしか見えないのです。

120ミリのコーススレッドは抜こうとしても無理で、土台とログのあいだにバールを叩きこんで隙間を開け、金のこで一本一本切りました。泣きたくなくなりました、全く。

夕方、ようやく正しいログを「番号」をきちんと確認して固定し直し、貴重な休みの一日はこれで終わってしまいました。材料の山をあらためて眺め、同じような形と長さの材料が大量にあること、数字の中にはまぎらわしいものもあること、をあらためて確認しました。

毎晩寝る前に材料の図面を眺めて、おおよその形、長さを頭に入れようと努力しました。

## ⑥ ログの反り

横方向？（水平方向）の反りはイメージできていましたが、縦方向に反っているログ材があり途方に暮れました。何本コーススレッドを打っても納まるものではなく、中から外が丸見えです。結局これもログを削っていったんコーススレッドを切断しました。

妻側のログ材の端にボルトを通す穴があったので、長いボルトとナットを2つ買ってきて、まずログの片方をコーススレッドで固定し、もう一方の端の穴にボルトをとおして上下にナットを付けてギリギリと締め付けました。ビシッ、ビシッと音をたてながらもログとログの隙間がなくなったときは涙が出るほど嬉しかったです。

水平方向の反りは叩いたり押ししたりして強引に納めました。なんとか一人でできます。

## ⑦ ログ材

今回初めてログハウスを作ったのですが、作りながら何度も思ったのは、普通の家は、構造部分最終的には隠れて見えなくなるので、仕上げ材のサイディング

やクロス貼りをきれいにすれば、柱などには計算式を鉛筆書きしても構わないわけです。

けれどもログハウスは、ログ材が構造材であり外装材であり内装材かつ断熱材でもあり、つまりログ材を汚してはいけないわけです。

このことに気付くまで（というのも妙なのですが）、材料置き場のログ材の上を歩いたりもしたので、壁に靴あとがついています。（大後悔）

#### ⑧ 床張り

建設地は、風は強いし寒いしなので、床根太のあいだには50ミリ厚のスタイロフォームを入れました。これはホームセンターで買って、正確に切断してもらいました。床根太の上には12ミリ厚の合板を張りました。きしむといやなので、これでもかという位ビスを打ちました。この断熱材と合板はけっこうな量ですが、会社のバンを借りて運びました。

そのうえに富士フィルムで作っているらしい白いエンボス調の養生シートを敷きました。これは程良く滑るし滑らないし、防水性もあり、かなり頑丈でもあり、小屋の完成まで破れずもちました。

4段目位までログが組みあがったとき、息子がやってきて、「お風呂だ」と言いました。確かに、湯が張ってあれば露天風呂そのものです。壁によりかかって、しばらく二人で露天風呂をしました。彼は残念ながらまだ戦力外です。

#### ⑨ ブルーシート

床を張ったこともあり、一日の作業の終りにはいちいちブルーシートをかけました。特大のものを買ってきましたが一人ではできず、この作業だけ妻に手伝ってもらいました。

壁が出来るにつれ、シートの位置も高くなっていきます。中に入れる高さになると、子供の秘密基地的な妙に落ち着く空間になりました。

大雨の翌朝、シートをはずそうとして失敗し、かなりの水が小屋の中に落ちました。ショックでしたが、養生シートのおかげで助かりました。

#### ⑩ 窓

このキットを選んだ理由のひとつは、ペアガラスの窓です。その分かなり重量があり、嵌めこみのときはかなり厳しかったです。窓の両側3段位ログを積んだら、早めに窓を入れたほうがいいようです。

ドアはドアと枠に分けて入れたので、大きさの割には楽でした。

#### ⑪ 屋根

野地板は枚数が多く忍耐ですが、半分位できて小屋の中から見上げると、ああ、出来てきたぞ、という実感が得られます。説明書では、端は切って巾を合わせるとありますが、偶然か、そのままで納まりました。

床板を張っていたので、脚立作業は安全にできたと思います。登ったり降りたり、ネズミのように運動しました。

キットではこの上にシングルですが、「住む」ことを考えていくらかでも断熱しようと、木棧とスタイロフォーム（予算から、30ミリ厚）をまた大量に買って敷き詰め（デッキの上部分は入れていません）、その上に9ミリ厚さの「第二の野地板」を張りました。持ち上げられるかどうか不安で9ミリにしたのですが、人が上がるとたわむので、12ミリにすればよかったです。

そのうえにアスファルトルーフィングや水切り金物を取付け、シングルを並べ始めましたが、このシングルの重いのには辟易しました。シングルの張り方は、説明書を見てもどうも理解できなかつたのですが、実物を並べてみたらすぐわかりました。

シングルは足りなくなりそうにも見えましたが、若干余る位でした。端はカットしなければならず、大型カッターで切りましたが、かなり疲れる作業です。

棟包み、ケラバ金物を付けて屋根完成。

#### ⑫ 電源、電気関係

母屋の分電盤に空回路があったので、電気屋さんに3回路分小屋まで引っ張ってもらいました。小屋の中は自分で配線しました。あまり電線が多いのも見苦しいので、回路図を何回も書きました。1回路は、贅沢ながらエアコンを入れることにしたのでその専用です。あとは照明とコンセント用です。

配線工事が終わった翌日、エアコン屋さんが来ました。実はこの日が決まっていたので、間に合うように工事しなければなりませんでした。

エアコン屋さんは母屋のほうにエアコンを運んでいき、私が、「付けるのはこの小屋です」と言っても、しばらくは何を言われているのか理解できなかつたようです。確かにそのときはまだ屋根も未完成でしたので。

照明は、入口灯も室内灯もLEDタイプにしました。この小屋から省エネ生活を始めるのです。入口灯は、明暗センサーをつけて自動点灯するようにしました。夕方、ポッと明かりがついて、「おお、家になった！」と思いました。

#### ⑬ 室内

余った板で、棚板とCDラックを作りました。また、切ったログ材を5枚並べて固定し、キャスターをつけて、あぐらをかいて座るとちょうどいい高さのテーブルを作りました。板はまだ余っています。

#### ⑭ 塗装

ガーデン用の油性ステインが余っていたので、最初それをデッキに塗ったのですが、あまりに臭いのでやめました。いろいろ探して、「オスモカラー」というのを知り、近くでは売っていなかつたのでネット通販で取り寄せました。

これまで嗅いだことのない不思議な香りがしますが、刺激臭ではないので作業は

楽でした。

服はいつのまにかペンキだらけになるので、捨ててもいいTシャツとズボン。

「オスモカラー」に決めたもう一つの理由は、耐用年数が長いことです。

いずれにしても、こんな大面積かつ垂直面の塗装は初めてで、疲れしました。特に2回目（2度塗り）は、どこまで塗ったか定かでなく、塗り残しはまずいので部分的には三回塗りになっているかもしれません。角のログとログが交差しているところなど、「クアーツ」となる位面倒です。大缶ひとつでまだ残っています。ケラバと桁は不透明の白、窓枠は不透明の緑で塗りましたが、実はまだ未完成です。来春以降、続きを塗ります。

#### ⑮ 台風

建設地は見晴らしがよいのですが、そのぶん荒天のときは山の頂上なみに荒れます。台風の暴風雨では、窓枠を構成している角材どうしのあいだから水がどんどん入ってきたので、今後コーキングします。もしまた一から作る機会があったら、ログ材どうしのあいだにもコーキングを塗ろうと思います。

#### ⑯ その後

先日、寝袋を持ち込んで寝ました。快適でした。また、会社の人間を呼んで飲み会をしましたが、7人入ってもそんなに窮屈ではありませんでした。

自宅？母屋の私の部屋は5畳位で、ベッドとパソコン机、本棚でいっぱいです。エアコンもありません。それで、実は小屋のほうが快適です。そもそもは「物置小屋」のはずでしたが、途中からすっかり「私の部屋」作りになりました。

#### ⑰ 単独小屋作りについて

完全に一人だと、体力差などもあるでしょうが、この大きさが限度かと思います。いちばん長いのは4.5mあり、なんとか一人で持ち上げて担げます。「材料を探して運ぶ係」と「ひたすら組み立てる係」の二人が理想的ですが、いまでも小屋を見るたびに、「本当に俺一人で作ったんだよな」と感慨にふけています。これまで休日出勤していたのもやめて朝から晩までみっちりと休日を活用しました。

壁が完成するまでは先が不安でならず、昼飯を食べる時間ももったいなかったので、水ががぶ飲みしながら作業しました。2キロやせました。

壁が出来たところでようやく弁当を買ってきて中で食べ、寝ころんで、壁に仕切られた青空を眺めながら、ひさしぶりに休日らしい気分ひたったことが印象に残っています。

「先を急ぐ」のは、「あの工程は果たして一人でできるのかどうか」が未知のため、早くそこにたどり着いて通過してしまいたい、という気持ちが強くあったせいです。通過できたあとの満足感、解放感はひとしおですが。次回は、一人でももっと余裕をもって作業できると思います。次回？